

暫定版

本議事録は、発言者全員の確認をとったものではありません。

プレス会見概要
(統合本部合同記者会見)

日時：平成23年5月18日(水) 16:30～18:35

場所：東京電力株式会社本店3階記者会見室

対応：細野内閣総理大臣補佐官、西山審議官(原子力安全・保安院)、坪井審議官(文部科学省)、加藤審議官(原子力安全委員会)、松本立地本部長代理(東京電力株式会社)

<細野補佐官挨拶・趣旨説明>

お疲れ様でございます。今日も統合対策室の会見に足を運んでいただきましてありがとうございます。

私からは1件、本日午前中に、2号機に初めて作業員がこの事故の後入っております。

昨日の道筋の発表でも、東京電力そして政府双方からも皆さんにご説明申し上げましたけれども極めて厳しい中で作業をしている作業員の健康の問題、線量管理の問題、そのバックアップには全力を尽くしていきたいと、改めてそのように感じております。

この点をめぐりましては、様々な皆様から厳しいご指摘を頂いておりますけれども、やはり現場で作業員の皆さんがしっかりと活動できるということは大事でございますので、是非彼らのがんばりを、ですね、メディアの皆様にも伝えたいと思います。

これは私からのお願いでございます。私からは以上です。

<各議題の説明>

○環境モニタリング

【東京電力】

- ・ 空气中の放射性物質の各種分析の結果(第54報)
- ・ 海水からの放射性物質の検出(56報) 沿岸部北側放水口セシウム2.2倍。それ以外は告示限度から次第に減っている。

【文部科学省】

- ・ P73前回は米国DOEとの協力。今回は日本側の航空機のみ。

【原子力安全委員会】

- ・ ①、②はセシウムで限度を超えている。
- ・ 沖合⑥から⑧は越えている。オーダーは小さいが注視が必要。
- ・ 全国都道府県は影響なし。
- ・ ICRP2007勧告における線量と影響の相関について、第3章ではICRPの考え方が示されており、その中から抽出。放射線の影響が大きく確定的影響と確率があり、3.1は確率。150mGyは不確実性が存在するが、疫学的実験的研究がリスクの証拠を提供。
- ・ 原安委はこれまで行った助言について、HPで発表している。

○福島第1原子力発電所の状況。

【東京電力】

- ・ たまり水は2号トレンチ建屋、3号から集中廃棄物処理建屋に移行している。
- ・ トレンチ立で坑、タービン建屋水位は終了後紹介。
- ・ 使用済み燃料プールへ70t注入。1号6m³/h、3号13m³/h。
- ・ その他、瓦礫の撤去、飛散防止剤の散布を実施。
- ・ 13:20メガフロートが1Fに到着。
- ・ 2号機入域9:24、9:38退域、東電社員4名。被ばく4.27mSv最大、3.33mSv最小。湿気によるモヤが多かったので14分程度で退域。
- ・ 結果及び写真等は明日提供。
- ・ 3号機取水口付近で採取した放射性物質に高い値。防波堤でとどまっている。
- ・ パージ船が出港する写真を提供。シルトフェンス付近、攪拌される。明日バラメータを見る。
- ・ たまり水の量、最新値を見直した。

<1～6原子炉建屋地下、タービン建屋、トレンチの溜まり水の量を説明>

- 1～4号機84,700m³。5,6号機は仮設タンクへの移送を考えている。
- ・ 2号機の使用済み燃料プール水について、冷却システムへのケール敷設作業を実施中。その後熱交換機の設置等を行い、5月31日に試運転を予定。保安院に設置計画を説明し、安全性の確認を受けたい。

<質疑>

Q：最新のニュースなのですが、内閣参与の平田オリザ氏が17日のソウルの講演で、東京電力が先月に低濃度放射性汚染水を海に放出した件で、平田さんが米国からの強い要請で流れたと説明していることが報道されている。この事実関係について教えてください。

A：（細野補佐官）失礼しました。平田さんのその発言について、どういう発言だったのかということについて正確には把握しておりませんけれども、私は米国側の皆さんとの窓口をやっておりますので、一応おそらく事実を把握していると思います。この水の排水についてはですね、日本側の判断で行っておりまして、米国からの要請というのは一切ありません。

Q：放出決定までの流れについて簡単にご説明いただければと思うのですが、東京電力側から連絡があって、最終的には政府としてどなたが決定したということになるのでしょうか。

A：（細野補佐官）東京電力側とこの本部で我々は一緒におりますので、いろいろな相談というかですね、話があったのは事実です。ただ政府として、どういふふうに誰が判断したかということをおっしゃるならば、東京電力が排出の必要性を、認識をして、ですね、そしてその判断を保安院に求めたのです。そして保安院がそれについて判断をしたと。「流してよし」と判断したと、そういうことになりました。

Q：東電から、現場で働く方のがんばりを伝えてほしいとの要望があった。吉田所長との会見をセットしていただきたいが、どうか。

A：（東電）今、復旧作業に全力を挙げており、頑張りを伝えることから、対応したい。

Q：2号機冷却装置について、試運転5月31日、本格運転はいつか？今後の予定をゆっくり。

A：（東電）5月31日試運転を行い、うまくいけばそのまま本格運転に入る。校庭については、5月15日から23日、分電盤から冷却システムまでの連携のケープルをおく。24日以降1号機のRHR代替ユニットで説明したように、使用済み燃料プールから熱交換ユニットで交換機を通し、空冷車を用いる。二次側で使う水を除熱するシステムを考えている。

Q：試運転と本格運転は区別ない？5月30日？

A：（東電）5月31日

Q：たまり水の量は1～4はタービン建屋の分か。今日説明したものとの関係は？

A：（東電）87,500tと申したが、誤解があって、1～4号の原子炉建屋含むものが87,500t。1号機原子炉建屋分が2,800t減っているが、当初と同じ量が存在したら、5,500tあったとすると87,500tとなる。1号機の地下の水の量が床面から4.2mとわかったので、計算した結果、27,500t。トータル84,700t。注水が漏れてくることで、年末まで20万は変わらない。

Q：1号機水量を5,500tと見積もっていたのを2,700tとというのは減っているということ？他は影響ないか？

A：（東電）そういうこと。1号機だけ見直しているのでそうなる。

Q：5、6号機は新たにまとめたのか？

A：（東電）4月4日現在が最深値。今回溜まり水という観点から精査した。

Q：移送に大きな影響ない？

A：（東電）2号機からやっているが、タービン建屋の水位変化がないので、4月17日の数値。87,500tはその数値であり、集中廃棄物建屋に6,000tほど行っているがそれはなし。

Q：プールは冷却の作業を予定？

A：（東電）冷却プール浄化系を使う。もともと使用済み燃料プール冷却のためのライン。2号に設置されている廃棄物処理建屋にある配管を利用し、2次系の空冷を設置。線量は高いわけではなく、通常の管理レベル。

Q：中間熱交換機は廃棄物処理建屋内、そこから空冷のものを外にひくといふことか？

A：（東電）ものは2号機近くの廃棄物処理建屋に熱交換機ユニットを設置。

西側にS F T R建屋に熱交換ユニットを置く。屋外に空冷塔を置く。

Q：S F T R建屋？

A：(東電) フィルタと廃スラッジを保管。

Q：稼働したら2号プールは4.5度から何度まで？

プール水を前倒しで、2号機をやる理由は？

A：(東電) 残留熱は0.6 MWと想定、十分低い。運用開始から1ヶ月で4.0度を想定1.0 m³/hを想定。前倒しについては、コンクリートポンプ車、FPC除熱しているが、安定した冷却に持ち込むため、準備できた2号機から実施。

Q：保安院の説明では蒸気を取り除くとのことだったが。

A：(東電) 2号機は湿気が高い。原因は屋上が1, 3号と比べて爆発していないので蒸気が溜まっている。使用済み燃料プールからの蒸発がないわけではないが、こうした対策が進めばプールの蒸発が減ると想定している。

Q：細野さん伺いたい。ステップ2が終わったときに目指している、原子炉の冷温停止状態、燃料プールのより安定的な冷却、滞留水について汚染水全体の低減、これらの定義を示してほしい。滞留水について汚染水全体の低減とあるが、1ヶ月前の工程表には汚染水全体の抑制となっていて表現がやや変わっているが、これについて教えてほしい。

A：(細野補佐官) 最後に指摘をされた部分はおそらく大きな意味があるわけではなくて、減らすという意味で同趣意だと思えます。字句の変更ですと、それ自体にそれほど意味はないかと思えます。定義とすることで、すけれども、冷温停止というのは、今の東京電力が定めている保安規定、これは国の認可を受けたものでは100℃以下であれば冷温停止ということになるわけですが。ただ、ここでいう冷温停止というのは、通常の制御棒が入った状態を指しておりますので、単純に100度以下になる、そういう意味では1号機ではそういう状態にかなり近くなっておるのですが、単純に通常の状態で100度以下になって冷温停止だからといって安定的に冷却ができていて完全に大丈夫ですということと、これまでの状態を今の1号機で即座に認めるといってわけにはいかないかと思えます。そうやってくると、冷温停止というのはもうこれ以上心配いらないという状態を

全体として指しますので、たとえば中の燃料の状態がもうそれこそ急激に熱くなるような不安定な状態ではなくなっているというようなことを確認しなければなりません。それは東京電力だけの判断ではなくて安全委員会なども含めて総合的に判断されるものではないかというふうに思います。あとそういう総合的な判断が冷温停止について必要だということでは、あとは・・・どの部分を仰いましたか。汚染水の問題を言われましたか。

Q：いや、燃料プールについてはより安定的な冷却とあり、さらに滞留水については「汚染水全体の低減」とあるのですが、何ををもって達成したというふうに判断できるのかよくわからないので、そこをはっきりとさせていただけたい。

A：(細野補佐官) はい、わかりました。燃料プールの安定的な冷却というのは、今まさに2号機で行われている状態です。ですから、これまでキリンで主に入っていたわけではなく、それを内製化して、そして熱交換ができて、本当に40℃からぐっと水温が下がってくれば、プールの水温が下がるといことはそこからの放射能の飛散が止まるということですので、それが1から4まで冠水をすれば、すでに2号機はできつつありますので、できてくれば燃料プールについてもより安定的な冷却の状態になったと、そこはもう明確に言うことができます。それと、汚染水全体の低減というのは、まさに今準備をしております汚水の処理施設ですね、これが完成すれば、高濃度のものが少なくなるとそれぞれの原子炉の中にもう一度入れることができるという状態になれば、高濃度のものが一様の方向性ができると、解決になると。それで、低濃度のものはそれぞれ様々な処理の方法に入っておりますので、それについても安定的な状況になれば、そこそそうした水が海に流れ出るといって心配がなくなるわけですから、そういう心配がなくなって水が減ってくればここでもいう汚染水全体の低減という状態に入ってくるというふうに思います。

Q：低減というのは、ボリュームとしてこれぐらい以下になったら達成したという判断をするのか、あるいは今作っているアレバとキュリオの施設で処理が始まったから低減だということに言えるのか。

A：(細野補佐官) アレバとキュリオのシステムがスタートするのは6月の半ばという見込みでございますので、それが動いたからすぐに解決するといわわけではないというふうに思っております。さまざまな取組をしておりますので高濃度のものも低濃度のものも海には出てないし、さらには量全体も減ってきているという、明らかに減ってきているという状態を作るといって大丈夫かと思えます。

Q：何ををもって低減したと判断できるのか。何がメルクマールか。

A：（細野補佐官） どういうご趣旨で聞いておられるか、ちよつと私も掴みかねているのですけどね、こういう状態というのは世界初めて経験しているわけですね。これ以上上海に流せないですから、流すための取組をしているわけです。確実に減ってくればその心配がなくなりますから、まさに低減したということになるというふうに思います。そういう状態になれば今避難している方々について帰っていただけたところには帰っていただけたわけですから、それを、政府を挙げて目指しているということですよ。

Q：近く処理施設はできるわけなので、ステップ2のところまで、つまり、かなり8ヶ月先まで遅れるのがよくわからないし、8ヶ月先までもってくるからにはもうちよつと何かこれだけのことができますとはつきり言えるのかなと思っているが、そうではないのか。

A：（細野補佐官） 先程、松本さんより、84,700立方メートルという高濃度の水があるという、そういう話がございました。低濃度のものはまたさまざまなところからこれからも出てくる可能性があるわけですね。ですから一つの設備を作ったからといってその問題が全て解決するというわけではないのです。そういった低濃度のものも含めてしっかりと解決をできるという方向性が出てこないか全体としての汚染水が低減してもう心配ではないかという状況にはなかなかないですね。それには一定の時間が必要ではないかということですよ。

Q：ありがとうございます。

Q：東電に何うが、仮払いの支払状況がどうなっているのか。

Q：細野さんに何うが、このところいろいろ会見などを聞いていても、例えば、原発以外の場所からの放射性の物質の処理について、処理するための法律がないとかですね、こういう事故を想定した法制度がないということと、いろいろ苦労もあるという話も聞きますけれども放射性廃棄物の処理以外に、法制度が準備できていなくて今苦労しているというようなことがあるのかどうか。

Q：文科省に何うが、航空機からの土壌の調査をやるということだが、もっとエリアを広げて関東全体ぐらいまで土壌の汚染調査を行う予定はないのか。

A：（東電） 52,000件（昨日17:00）申し込み。振り込み18,000件

A：（細野補佐官） 一番やはり不備なのは廃棄物だと思います。原子力発電所から出たものは、様々な規制の対象になるわけですが、それ以外について、扱いはたしてどこの省庁がするのか、どういう法律に則ってやるのかと、いうことが不明確ですので、そのことに一番、法の不備を感じております。ですからこれは何らかの対処がこれからは必要になってくると思います。あとは、法律では必ずしも全て規定されているというわけではないのだと思っておりますが、クリアランスをどうするのかというのかなり問題でして、そういうレベルのものであれば、通常の処理をして、そしてどういうレベルのものであれば、どういう処理をするのかという、ですね、これを、こういう事態になっていますので、現実に対応できるようなものにしなればならない。これも、付随する問題ですが、いろいろ悩ましい問題としてあるなというふうに思っております。

Q：具体的に言うと、例えばどういう処理をするのか、というのは？

A：（細野補佐官） そうですね、汚泥もちろんそうですし、学校の土ももちろんそうですし、その他の一般的な廃棄物ですね、これも全て様々なレベルの放射能を帯びている可能性があるありますので、すべからくどうするかということが非常に難しい問題として残っていると思います。

A：（文科省） 土壌の調査は大学とも協力し、有識者の意見を聞いて、どうか調整中。

Q：やる予定はあるのか？

A：（文科省） 有識者の意見を聞いて決める。

Q：東電に聞きたい。2号機10分間の作業で出てきた理由は、どのくらいのエリアを計れたのか。

Q：従来、外付けのフィルタ装置を使っていたが、工程表見直し後入ったのは、窒素封入の理由などあるのか。

Q：溜まり水の関係で、原子炉建屋地下に入っている水を、これまで相当量入っているが、ここに書かれた以外の分は成功したか？量の出し方が不明。詳しく説明いただきたい。

Q：情報公開の件で一とお願しいたいことで、以前から言っているのですが、先日16日の段階で事故発生当初のデータを詳しく出していたいただきましたけれども、その中で発生当初の日誌等、作業員の方の実際の動きがわかるようになってきているのですが、それ以降の分の日誌の公開などお願いできないか。それに加えて、例えば現場の判断ですとか、あるいはトップの方の指示、こういったものがいつ行われたかという、そういったことが記録されているものがこの間の資料にはなかったのですけれども、従来からの報道でもですね、かなり細かいことができてきております。そういったものをやはり公開していただきたいと思っております。これについてお願いしたい。これは細野さんにも意見を伺いたいと思います。

A：(東電) 2号機の入域の問題、どこまで入って測定したか報告を受けていない。明日報告したい。2号機はいる理由は、建物の中がどうなっているか、早い段階から知っておくことが、今後の復旧作業からも重要。まず目視でどこが痛んでいたか、原子炉建屋上層階がどうなっているか、目視での確認が重要。3号機は蒸気の問題であったが、4.1mSv/hで人間が用心して入れると判断。今後、目視が終わった後、窒素充填のための現場確認、水位計の校正等を行う。溜まり水は2,3号機も注水した量と溜まっている量が、正確にバランス取れている状況にない。圧力容器、格納容器に溜まっている、蒸発分もある。2～4号機原子炉建屋地下の溜まり水は、何cmの深さで溜まっているか、タービン建屋の地下水位と同じと推定している。OPと同じとして底面積を足して、内蔵機器の体積を除いている。16日にパラメータ公開、主要日誌、ホワイトボードは公開した。今後、プラントの状況を把握するため、時系列でのデータを保安院に提供したい。

A：(細野補佐官) 今、東京電力の方からかなり前向きな回答がありましたけれども、公開できるものは出来るだけ公開するというスタンスで臨みたいと思います。

Q：最後は保安院に提出されれば我々にも？

A：(東電) それで結構です。

Q：溜まり水の水位はOPで同じにするのは、通常のやり方か、わからないからか？

A：(東電) 明確な根拠がないが、原子炉建屋とタービン建屋でつうつうの部分があるかと推定。その結果、タービン建屋も高線量のデータがあり、水面下で通じていると考えるのが適当と考える。タービン建屋は津波の進入もあった。原子炉建屋は漏れもあるので、両方考える必要があるが、今回

は水面が一致していると評価。

Q：1号機は原子炉建屋4.2m。タービン建屋は？

A：(東電) タービン建屋は5050なので若干水位高い。

Q：東電に聞きたい。原子炉建屋のことだが、湿度が高くて10分でたことだが、外付けの冷却装置をつけるのか。湿度が高い中でチャレンジするか。溜まり水はそれぞれの号機でつながっていることについて、どういうレベルでつながっているとの認識か。常に集中ラドに移送しているのに減っていないことを考えると、今の水位を元に概算する意味があるのか。他にもっと多いのではないかとこの推定もできるのでは。これだけとす

A：(東電) 2号機に今度どう入っていくかについては、プール冷却が進めば、

5月31日以降進めば建屋のもやもやが減ることが考えられ、それ以外どうするか検討中。ダスト放射線レベルが少なければ二重扉を開放して換気できるのではないかと考えられる。開放前には局所排風機で1号機と同様にすることも考えられる。現時点でこうなので、チャレンジでなく計画を立てていく。建屋がつかっていることについては、流出は分かからないが、核分裂成分が見つかっているので少なくとも原子炉期限と見ている。抽出した水が原子炉建屋を通じてタービン建屋に流れていると判断。集中建屋への移送は、2号は水位変化ないが、3号機は昨日から移送した結果、朝の段階で10mm減っており、様子を見たい。まずは処理する。入ってくる量は注水側で500m³/dで年末まで。地下水の流出あるか確認できていない。

Q：何らかの対策を打てば入れるのか。

A：(東電) 目を置かなくて入れるのではなく、対策を採る。

Q：工程への影響は？

A：(東電) 2号は窒素封入と計器校正であり、着実に進める。現段階ですトップ1、2への大きな影響はない。

Q：溜まり水、地下が繋がっていることについてどう見ているのか。

A：(東電) 3号と4号は明らかに水位挙動が同じ。繋がっていると認識。1、2号期間は水面の変化は1号機5,050と2号機3,230でアンバラン

ス。トレンチで貫通している経緯は見られないが、もう少し調べたい。

Q：繋がっているところに変な水があるとか、それ以外のところに眠っている溜まり水がある可能性も考えられ、どれくらいのリょうか分からない。

A：(東電)溜まり水は代表的な高さに床面積をかけているが、実は水がなかったケースも考えられ、一律に高さ×底面積でやっており、逆に水がないところも。

Q：MAXで84,700か、見えている範囲で84,700なのか

A：(東電)そういう意味では床面積×高さでやっており、算出に入っていないケースもあると思う。

Q：仮払い保証金の件で、金額ベースでは、55,000件に対し、18,000件は遅くないか。どういった点で？

1世帯あたりかと思うが、農林漁業者への仮払いの見直しは？

A：(東電)1点目は確認する。多くの方からの申し込みがあり、スピードアップを強化することを考えている。2点目も確認する。

Q：申請は何万通？

A：(東電)確認する。

Q：東電に聞きたい。広瀬常務が仮払いの件数は、昨日まで22,000と言っている。数字が違うのでは。1日に500m³/dで、知流水8万トンと合わせて20になるのが、8m³/hとすると、現状水棺ができないとかけながしとなるが、残留熱をとれない時間はどうみているのか。3,4が通じているとのことだが、4号機の水位が減っていて、4号機の核種分析は、3号機と同じようになっているのか。確認したのはいつか。

A：(東電)仮払金は確認する。残留熱は、冷温停止の定義づけによる。最終的には水を注水して冷やしていく。3号、4号は先般、溜まり水の分析をしたが4月22日の分析では要素131が3号機で6.6×10⁵、4号機が4.3×10³(4月25日公表)。

Q：3号機と4号機では2桁違うが、4は流れ込み内ので、つうつうと考えられルが核種違うのは。トレンチ、タービン建屋違って良いのでは。

A：(東電)4号機は津波の影響で浸水を受けている。今回3号から移送するので、3号から減ると思うが、通路があるので、ある程度4号機からも減ると見られる。

Q：4号機はずいぶん水位を減らしていたが、3号からどれくらい？冷温停止、崩壊熱とれるまでとのことだが、期間は明確にできないのか。

A：(東電)3号から4号どれくらいか確認出来ない。今の時点で崩壊熱は定格運転時の1/1000から1/1200であり、これに見合う量を注水している。

Q：2,3号は？

A：(東電)同じ。

Q：3号機の温度が高いのは？

A：(東電)炉内の水の周り方が違うと考える。

Q：2号機の熱交換システムに使われる空冷チラーは1号機と同型か。2号機の湯気は、以前、S/Cの破綻に伴うものとのことだったが、現在はプールからの蒸発が原因になったのか。溜まり水は6号機の4千トンとする根拠は何か。2号機は人が10分入ったとのことだが、その理由は。

Q：細野補佐官に聞きたい。先日私どもが取材してニュースで取り上げたものとして、千葉県にある放医研の方がネット上に、事故以降どれくらい自分たちが積算の放射線量を浴びたかというものを計算できるネット上のプログラムというものを作りまして、近々公開するというニュースを放送した。当初20日に予定ということだったが、最近フォロワーたら公開が遅くなったということも伺ってしまっていて、まず細野さんご自身が放医研の開発した、そういう個人々が例えばある時期どこに何時間いて、どういうふうに行動したかと、いうのを打ち込んでいけば、ざっくりとしたデータを得るものだが、まずこのシステムをご存じか。なんでこれが延期になったのかをご存じであれば教えてください。

A：(東電)2号使用済み燃料プールユニットは1号機と同型。熱交換機については、プレート型冷却塔は、大きな箱にフィンがあるもの。湯気の根拠

はどちらがどれくらい割合かわからないが、S/C由来とプール由来が考えられるが、S/C由来であれば、原子炉由来の核種が同伴して線量が多くなると考えられる。4 mSv 程度なら使用済み燃料プール由来の可能性が多いと思っている。6号機の溜まり水は、基本的に地下水からの流入が原因。2号原子炉建屋への入域が10分であったことについては、まずロボットによる前回測定時の線量が4 mSv/hで、室温が40℃程度であったことがわかっており、もともと10数分で帰ってくる予定だったということ。モヤがあったので、視界を阻まれて戻ってきたのではなく、もともと室温が40℃程度だったので、10数分程度で帰ってくる計画だった。結果については明日報告したい。

A：(細野補佐官) 放医研の方で、そういったことについて準備をしているというのは、私も聞いておりました。どういうふうなそれを運用するのかということについて、準備を進められているものというふうな承知をしておりますが、20日云々の日程の話はすみません、私ちょっと存じ上げません。

Q：14日にうちのニュースで取り上げているのですが、その段階で20日頃には公開できるというスケジュールだったのが、確認したら延期になったというふうな伺っている。理由はご存じないということなのですが、福島も含めて地元の方々というのは自分たちがどれくらい線量を浴びているのかという非常に不安に感じている部分がある以上、ある程度目安として自分はこういう行動でここにいたからこのくらいかもしないということ把握するというのは、非常に彼らにとって安心材料という意味で言う非常に重要でして、なぜ20日頃の予定が延期になったのか調べていただいて、出来るだけ早く放医研の方に働きかけて出すようにしていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

A：(細野補佐官) ちよっと確認をしてみたいと思います。運用の仕方だと思うのですけどね。どういうふうなそれを使うのかということについて、どこにどういふふうないたのかということですから、かなり色々な入力を入れなければならぬのだと思いますので、確認をしたいと思います。

Q：平田内閣官房参与の海洋への放出前の米国との関係の発言について、米国の関与はあったかどうかなのか、専門家の同席があったか、直接保安院、東電が米国とやることはあったのか。1号機について、武藤副社長から燃

料変わらないとのことだが、水蒸気爆発の可能性があるので。東電のコメントロール下にあったか、偶然か。

Q：松本さん、細野さんに、学校などの汚染土壌、汚泥について東電側の責任があるとのことだが、本当にその対応を東電がやるのか、政府か、自治体か。

Q：坪井さんに。本日衆議院、文部科学委員会で高木大臣が梅雨前に校庭の土の処理を終えろと言ったが、試験がうまくいかなかった場合の代案はあるのか。郡山市の学校で校庭剥がすと砂利が出てきちゃって、上下入れ替えても同じではないかという話も出てきている。土を足すことになるのか。

Q：全国高校文化祭が福島で計画されているそうだが、どこで行われるか明確な基準は？

A：(東電) 米国の協議は政府中心に進めているとのことであり、私どもが参加したことは聞いていない。燃料の状態は、事故時、注水をして冷やすことが最大の課題であり、環境中に物質がどれだけ出るのが判断の基準。水蒸気爆発が防げたかどうかは今後分析の中であきらかに。汚染土壌については、昨日発生者としての責任は感じているが、どうやって対応するか政府と相談する。

A：(細野補佐官) まず一点目の平田オリザ参与の発言ですけれども、さきほどちよっと確認をいたしましたけれども、ご本人も発言そのものを勘違いだったということで訂正をされたというふうな聞いております。事実関係として、この汚水の問題について日米で何か話し合って協議をしたという、そういう事実はありません。もちろん、この中で技術的ないろんな打ち合わせを行ったという経緯は、場面は、私自身は参加をしていない会議の中ではあるというふうな思いですが、その中でもそういう話が出たというのは、私自身は聞いておりませんが、ですから、私責任者ですので素直に申し上げると平田オリザ参与が勘違いされたのだという風に思っています。あの、汚水の処理そのものについて私も、ずうっと経緯を見てまいりましたけれども、日本の判断でやったという事については全く疑問の余地がないというふうな思っています。それと、冷却についての水蒸気爆発ですが、しっかり検証をしてみる必要はあるというふうに思います。これからどうかという事に関して言いますと、もちろんあらゆる可能性を考えていかなければなりませんので、そういった事についてももう一度検討をしてみなければなりません。またそれが、水が入らなくなればこれはまあ色んな意味で問題が出てくる可能性がありますが、現状においてはそれがまた熱を持って圧力容器を突き抜けて全てが格納容器に行ってしまうので水蒸気爆発というよう

な危険性は殆ど無いのではないかと見えておられます。あと汚泥です。汚泥は汚泥であるとか他の廃棄物も含めて、この発電所ものものから出ているという意味では、東京電力の皆さんにも責任を持っていただかなければならないというふうには思います。ただ、東京電力の責任だから全てもうどうぞ東電さんでやってくれとお願いするのではなく、早めに関心を持ってもらいたい。政府としても地域の皆さんの安全であるとか環境の改善ということに取り組んでいかねばなりませんので、政府も責任を持ってやる必要があるのではないかと思います。

A：(保安院) 各国との協議について、安全の観点から話し合いをしている。
A：(文科省) 大臣の件については把握していない。土壌について砂利が出てきた場合、JAEAの報告書でも強度、砂利などは一般的な形でできないこともあるとのことなので、個別の事情に応じる必要がある。全国高校文化祭は分らない。

Q：2、3号機の水素爆発についてはどうか？

A：(東電) 注水による冷却がなされ、安定している。

Q：可能性はないのか？

A：(東電) 万一、注水が途切れた場合、再度注水することはないこともないが、現在ではバックアップのポンプ車等でのリスクは低減されている。

Q：坪井さんに、土壌の試験結果が悪かった場合の代替？

A：(文科省) 前回、説明で有効とした。表面削って土がない場合は、どこからか土を持ってこなければならないが、個別の想定について、具体的検討の段階にない。

Q：土を持ってこられる検討もしていないのか。

A：(文科省) 表層にしか土がない場合について調べていない。データを持っているわけではない。

Q：東京電力と適宜細野さんにもお答えいただきたい。東京電力の方で地震直後のデータを公開してもらった。ホワイトボードにあった内容だが、3月11日午後9:51に1号機の原子炉建屋で入域禁止になるほどの高い放射線量が計測されているというメモが書かれていた。東電としてその当

時に政府や周辺自治体にこのことを伝えていたかどうか教えてほしい。

Q：細野さん、もしご存じであればその情報を受け取っていたかどうか教えてほしい。この時点で、原子炉の注水が止まっているので水素が出ていることが予想されると思うが、この時点で水素爆発の可能性を予言されていたか。さらに、放射線漏れや水素爆発の予想があれば、早めに周辺の住民に知らせたいれば避難がもっとスムーズになっていたのではないかと思うがそのあたりはどのような対応をしていたのか。

Q：最後に清水社長が参院の答弁だったと思うが、ベントの遅れの原因は住民避難や線量の確認に時間がかかったなどを挙げていたが、もしこの時点で予言ができていればベントの遅れも回避できたのではないか。

A：(東電) 現時点でホワイトボードに記載するのは、経緯など聞き取り調査を実施中であり、メモがあることを報告したものだ。これまでの知見でこういう状態になれば、炉心損傷し、水素が発生することは、予想されていたが、これまでとってきた対応が良かったかどうか、手遅れだったのか、事実関係を示すことが私たちの使命であり、第三者機関の事故調で判断されることと考える。

A：(細野補佐官) 3月11日の夜というのは、非常に厳しい状況の中でございまして、全ての情報を詳細に私が記憶しているということではないので、今ご質問された中でちよつと思ひ出しておいたのですが、ちよつとその情報をその時点で、官邸で私が耳にしていたかということについては記憶がありません。すみません、ちよつと今答えられるのはそこまでです。政府内でどうだったのかということについては確認をしてみたいと思います。

Q：確認をよろしくお願ひします。東電にもう一度確認させてほしい。高い放射線量がでていたことについて政府や周辺自治体にこのことを伝えていたかどうか教えてほしい

A：(東電) それも確認中です。

Q：確認できたら教えてください。

Q：1点目は東電に、高濃度汚染水が放水されたことについての健康に与える影響についての評価を16日に出してもらえませんかということだったと思うが、これはまだか。

Q：2点目、炉内のシミュレーションについては、東電はつい最近までできていなかったということだが、保安院や安全委員会は今の段階では問題を

していないということだが、細野さんとしてメーカー関係者が現場にたくさんいるにもかかわらずコンピュータによる解析を実測の数値の観測と同じ時に行わなかったというのは、手落ちではないか。

Q：3点目、新たな工程表が出てきたが、冷却についてのプロセスというのが国民には伝わっていない。崩壊熱というものが水量の変化によって温度がこうなるのかという説明がない中で、安定的に冷却していますと繰り返されても説得力はない。データの裏付けがあるものを出してもらわないと工程表の信頼性がかける。

A：(東電) 1点目は5月16日目に準備を進めていたが、3号機からの汚染水の漏出があり、提出できていない。保安院と相談しながらだしていきたい。実測値として圧力容器温度は順調に下がっていて、原子炉は安定的になっていると考える。

A：(細野補佐官) シミュレーションが遅かったのではないかとという質問でございしますが、率直に言って、ほとんどデータがない中でやったシミュレーションですので、早かったか遅かったかという判断そのものも、ちよつと私、する材料を持ち合わせておりません。つまり、これマップというシステムなのですけれども、このマップというシステムがどれくらいの仮定に基づいてやれるものなのかというソフトの性格そのものが私には今の時点ではわからないので評価は少し厳しいかと思いますが。最終的に様々な検証作業を行われるでしょうから、その中でどういうシミュレーションがあり得て、それがどの時点で起きたのかというようにも専門家のご意見をいただく必要があるのではないかと思います。

Q：1点目について、保安院には報告していたのか。

2点目について、シリアスなアクシデントが起きた場合の炉内の様子がどのようにになっているのかは、シミュレーションとしてはいろいろパターンが出てくるわけで、それを本件に当てはめて実測とシミュレーションを比較するなど立体的に物事を判断するのが当たり前のように思う。今の説明では全力を尽くしてやっているというふうには思えない。できなかったことは今後の課題とやるべき。メーカーがいるのに何をやっていったのか。3点目については、データなしに安全と言っても情報が不足と思っている人が多い。燃料が入っていた時間からすると、崩壊熱がどうなるか発表すべき。それをしないと、終戦前に日本が勝てる、勝ると言っていたのと同じ。

A：(東電) 5月16日の段階で遅れると言ったか定かでない。改めて申し上げる。3点目の件は、実際の温度として下がっていることと、崩壊熱が

定格運転時の1000分の1から1200分の1になっていることを申し上げている。

Q：推移がどうなるか、今後変わってくる。推移が分かっているなら出すべき。

A：(東電) 指数関数的に減衰するので。適宜お示ししたい。

Q：適宜でなく、わかっているなら各号機ごとに。

A：(東電) 検討したい。

Q：IAEAの調査団の件なのですが、現時点で具体的に決まっている、どこに行くのです。とか何をしますか、具体的なスケジュールが決まっているものがありますから教えてください。

A：(細野補佐官) 承知をしておりますのは、です、5月24日から6月2日まで国際的な調査団の派遣としてIAEAの皆さんを受け入れるということでございます。その後の20日から24日までのウィーンで開かれるIAEA閣僚会議において報告を行う予定というふうに聞いております。具体的な日程などについては、まだ十分な情報を私得ておりませんが、IAEAに対する日本側の報告書の責任者ということになりますので、来られたら是非お会いをして、情報の共有化というか、向こうからご質問があればそれにはお答えをしたいというふうに思っております。いずれにしてもこれは公的な団でございますので、詳細がまたわかりましたところでお知らせをしたいと思います。

Q：具体的にどこが決まっていけないということですが、福島の実地に行かれると思うのですけれども、その際の例えば調査の様子ですか、そのようなものを公表するようなお考えはありますでしょうか？

A：(細野補佐官) 福島発電所に行くことばです、おそらく今検討中なのですが、その方向になるのかというふうには思いません。まだ日程などについては、現地の状況さらには団の意向などがありますので、調整中ということとです。公表をどうするかということについては、IAEA調査団としての意向もあるでしょうから、それを踏まえた上で政府として判断したいと思

Q：要望なのですが、私の聞いたところでは、到着と帰国の際の会見は予定していることなのですけれども、例えばこの前警察庁長官が現地に行ったときに、プラントから4、5km離れたところで同行取材のようなものに応じている例がある。今回IAEAが福島県の現地に行かれた際にも、先ほど吉田所長の会見の件もありましたけれども、現地で何をやっているのかというのを直接伝えることが大切だと思えますので、調査内容の公表という点についても、是非お考えいただければと思います。

A：(細野補佐官) わかります。検討はしますけれども、IAEAの調査団の目的はですね、IAEA そのものが調査をすることが目的ですので、その問題と、どう情報を出来るだけ皆さんにお知らせをしていくのかという問題は、別の問題として考えていきたいというふうに思います。つまり、日本政府がどう考えるかということではなくて、IAEAの調査団がどういう形の調査をしたいかということ、この件に関しては第一に考えたいと思います。

Q：汚染水の放出の関係で、先日2号機の関連の集中廃棄物処理施設についてお伺いしたのですが、5号6号のサブドレンの方から放出した経緯と判断基準、こういった危険性があったのかというのを細野さんと保安院の方にお伺いしたい。

Q：先日福島第一に視察に行った際に、一緒に行かれた方の所属等含めて、検討されるということでしたが、その後いかがになりましたでしょうか。

Q：昨日の工程表の会見のところに、東京電力側から、2号、3号と含めたタービン建屋側とトレンチの関係の核種分析、 α 核種であるとか β 核種の分析をされた結果が出ていたというような発言があったのですが、我々の方に公表されていないのですけれども、統合本部の方では確認されていたでしょうか？

A：(保安院) 5、6号機については、5、6号機タービン建屋に地下水が流入することでも冷却ができなくなる緊急の損害から逃れる、事故を起こさない緊急の措置として、低レベルであったが、やむを得ず海に放出することになった。

A：(細野補佐官) 5号機6号機についての汚染水の見解は、保安院とまったく同じです。出さざるをえなかったこと自体は大変残念でしたけれども、やむをえなかったというのが私どもの見解です。米側の所屬なのですが、米側に確認をしているのですが、まだ確認がとれておりませんので、申し

訳ないのですがもう少しばらく時間を頂きたいと思えます。2号機3号機の汚染水の核種については、私自身いろんなデータを得ているので、直感でぱつと判断出来なかつたのですが、情報として共有されているということではなかつたようであります。ですから、自分自身はその事実は知りませんでした。

Q：5、6号の緊急性について、2号トレンチは外に出ているので分かるが、5、6号はどの程度緊急性があったのか。あと何分だったのか？

A：(保安院) 書類がないので詳細不明だが、ほとんどなかつた。水に浸かつたら他の号機と同じになってしまうので。

Q：時間的な提示はなかつたということか。

A：(保安院) 確認する。

Q：高濃度の汚染水の健康影響評価は3号機から出たのでとのことだが、とりあえず2号だけでも出すべきでは。2、3号一緒にいいという理由はあるか？

A：(保安院) まとめることを意図しているのではなく、我々として要求水準に応えられるものになるように、事前にやりとりするので、やむをえずこうなっているもの。

Q：3号でなく2号に原因？

A：(保安院) 規制者と事業者の調整の話であり、お話しすることではない。

Q：どの様なやりとりなのか。調整すべきことなどはないのではないか。

A：(保安院) 要求水準を明確にしないと、単に文書を出すだけでなく、求めているものを明らかにする必要がある。

A：(東電) 2号機の報告書をまとめている段階でもう少しとなり、3号機の漏出もあり、環境への影響評価は不十分と判断したのも。

Q：保安院と東電で調整することについて、足りなければ意見を述べるべきであり、見えない中でやるのはブロックボックスで。4月末に出すと言っていたのに16日まで伸びた、そういう話か。こういう中で重要と思っている。きちんと出すべきでは。不透明ではないか。

A : (保安院) 結果はいずれにせよ出される。批判に耐えるものが出されるか重要。調整という言葉に引っかかったかも知れないが。

Q : 二度遅れた理由をもう少し具体的に。

A : (保安院) その点は確認するが、非常に近い将来示せると思う。

Q : 補佐官に聞きたい。汚染水排出の件について先程米国との無かったと回答されたのですけれども、4月8日付けの東京新聞で3日前に事前協議と報道があるのですけれども、こちらについてどうお考えでしょうか。

A : (細野補佐官) えー3日前に事前協議という事実はあるのではありません。で、これは是非皆さんにご理解いただきたいのですが前回の技術的支援をしていくにこの件についての技術的支援はどうか前回の技術的支援をしていくに我々にとってはありがたい国ですけれども、日本がこの問題にどう対応するのかというのは日本自身が決めているのです。それは米側も一貫して理解をしています。さらに言うならば、この水を出すか出さないかという事が米国の利益と直接的に係わることでないの、米国が要請する種のものではないのです。実際問題として協議も行っておりませんので、平田参与自身が何らかの勘違いをされたのだというふうには思いませんけれども事実はありませんので、そこは正確に伝えていただきたいと思えます。

A : (保安院) 私は協議に出ていないので、分からない。DGについては津波対策。地震に対して弱いと元も子もないので確認していると思う。

Q : 協議無しということは、じゃあ東京新聞がこの4月8日付けのが、誤報ということでもよろしいでしょうか？それと、米国が、汚染水が海洋に排出されるということも、まあ要請は無くとも事前その可能性があるので伝えていたかどうかについてお聞かせいただきたいです。

A : (保安院) 承知。

A : (細野補佐官) あのまあ特定の1社の報道に対して誤報かどうかというが、私がなんか頭ごなしに言うのはちょっと何かと思いますが、事実ではありません。事実を伝えた可能性はあるかどうかかっておっしゃいましたか？

Q : 事前に可能性はあるかについて汚染水を海洋に出す可能性あるのかについて伝えたのか伝えていないのかについて。

A : (細野補佐官) あの日米では色んな当時はですね、今もそうですけれども技

術レベルの色んな情報共有であるとか、政治レベルも含めた全体の会議であるとかそういう事を複数やっておりますので、その中で今水がどういう状況にあるのかということについて情報共有した場面がそれはあったか可能性はあると思います。ただ、日米協議の責任者は私ですから、要請があれば当然私の耳に入るわけですし、おそらく私に直接あるべき話だと思います。で私が責任者として無いと言うことですので、要請そのものは全く無かったということです。

Q : 2号入域選定のプロセス、基準、誰が判断したか。

A : (東電) 選定の基準は今回の線量測定、現場確認に必要なメンバー。入域に関して判断したかは承知していない。私が知らない。

Q : 社員は現場で担当が分かれています中で、指示がされたものか、あるいは志願されたのか。こうしたことは所長の一存か、入域判断は本店に情報あって、手続きを踏んだのか。2号機に入ったのは大きなニュース。

A : (東電) そうしたプロセスあったか確認する。当初、タンクステンベスト北と行ったが、特殊性の防護服を着ていた[訂正]。

Q : 3、4号入域の際に同じ質問が出るので用意いただきたい。

<東電から宿題回答>

- ・ 仮払い関係で、申込み5万2千、振り込み2万2千。約200億円。
- ・ 漁業関係者5月末まで仮払いできるよう準備。5月13日から
- ・ 1件あたり10万円。

<東電から本日の進捗の報告>

本日17:00時点での原子炉容器への注水量

- 1号機 6 m³ / h、
- 2号機 7 m³ / h
- 3号機 消防系からの分を合わせて 18 m³ / h。
- ・ 1号機、窒素封入、131.8kPa。23,700m³。
- ・ 2号機、プールへの放水53t実施。ヒドランを含む。
- ・ タービン建屋から集中廃棄物処理施設へのたまり水移送、17:00現在、OP2,972。46mm上昇。

- ・ 3号機雑固化体減容処理システムへ、414mm増。朝から180mm
- ・ 4号、トレンチ水位は1号1,020mm, 2号3,240, 3号3,360。朝から変化なし。タービン建屋1号5,050、2号3,340、3号3,450mm。いずれも変化なし。
- ・ 飛散防止剤は8,750m²実施。
- ・ 遠隔瓦礫撤去はコンテナ3個分撤去。累計171個。
- ・ 3, 4号機大物搬入口瓦礫撤去は継続。
- ・ メガフロート、1隻目10:40小名浜港出発、12:40到着。2隻目は10:53出発、13:50到着。

<次回予定>

明日は16:45~

以上